

ちば発

第30号

千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会 広報紙
く ひら

暮らしを拓く



グループホームに思うこと「下宿屋と終の棲家」

社会福祉法人 薄光会
理事長 鳥居 博明

唐突な書き出しをお許し願いたい。東京で初めて下宿した時の話である。父母は、とりあえずの住まいとして脳性麻痺の私を親戚筋に間借りさせた。今は「下宿」という言葉は死語になったが、当時は三畳一間食事つきの下宿屋なんてざらにあった。下宿屋に憧れ、親戚筋という環境が窮屈で1年後に引っ越しを企てた。些細な行き違いから体よく追い出されたりしながらも、大学を出るまでにいくつかのアパート暮らしを経験した。卒業までの2年間は先輩の住むアパートを紹介されて落ち着いた。階下が大家さんの家だった。そこのおばさんのさりげない親切と配慮はありがたかった。居心地は抜群だった。

グループホームを思うとき、私はこの「下宿屋」という響きが気に入って、よくなぞらえる。現実のグループホームの本質を突くような言葉だと思うからである。私どもはグループホームを開設して12年になる。そこで感じるのは、よほど気をつけていないと、グループホームはミニ施設になってしまうという恐れである。もしかしたら既に施設然となっているかもしれない。私たちは支援という枠組みの中でものごとを考える。考えるあまり、入居者は「生活者一般」という広く平易な感覚を捨てていることに思いのほか気づかない。どれだけ私たちが効率性を望み、どれほど管理的側面や支援という名の介入を重視してしまっているのか。「下宿屋」の響きは、その呪縛からほんの少し私たちを解き放ち、自由な思考へといざなう心もちがする。ときに物事を斜めに見ることも要り用だ。

下宿屋のおばちゃんは、当人との距離を程よく心得ている。私どもの世話人は、多くが地元の年配の人たちだ。専門性など無縁だが、人のいいおじいちゃん、おばあちゃんである。入居者の障害が重いので、学生を見る下宿屋のおばちゃんとはいかないが、孫を見るような空気と関係性がある。ゴミ捨てのこだわりなど突飛な行動をめぐって知恵比べをしたりする。私はときに考えてしまう。始末に負えない中途半端な専門性よりも、よっぽど対等な生活者感覚がそこにはあり、入居者本人とじんわり向き合おうとする素地をそこに見出すのである。むつかしいことだけれど、専門性とこの素朴な感性の両立をもっともっと大きなものと捉えなければならぬのではないかな。

グループホームはゴールなのか。よくある議論である。「ゴール」いわゆる「終の棲家」なのか、「通過点」なのか。私は両方あると思う。ただし、通過点ならば、下宿屋のように「次」を見据え応援できる確固たる意識がなくてはなるまい。終の棲家であれば個々の生活環境や手立てが地域丸ごと具備されるべきである。「住み慣れた」というのはそういうことであろう。そして、老後もまたこの中で思慮されなくてはならないはずである。私どもの管理者は今日も「地元で金を落とし、入居者が顔なじみになるように、地元で共に買い物せよ」と指揮棒を振る。さて、住まうという本質が私どもには見えているであろうか。

第35回千葉県障害者グループホーム講座（北総地区）報告

9月15日（土）、成田市中央公民館にて開催致しました。北総エリアの香取・山武・印旛・海匝4圏域の障害者グループホーム等支援ワーカーを中心に「くらしのカタチを考える」と題し、形態別のグループホーム入居の生活や、グループホームを経て一人暮らしをされている障害当事者の日常生活に密着して、一人一人の生活をお伝えする内容でした。当日は70人の方にご参加頂きました。

現在、入所施設で生活する障害者より、グループホームで暮らす方の方が多くなっており、地域で暮らすライフスタイルの1つになっていると言えます。ただ、地域での暮らし方は一人一人違うという事を参加者の皆様と共有したいという思いで開催しました。

前半は、「そもそもグループホームとは！」という題で、グループホームの制度や現状について、会場の皆様と共通理解をしていきました。また、当事者の何気ない1日を密着取材し、サテライト型グループホームと、通常のグループホーム入居中の方の映像を見て頂きました。住む場所に関わらず、自分らしい生活を送っていることが分かる映像でした。

後半は、千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会副会長 松島浩一郎を進行役に、前半で日常生活を紹介していただいた（医）透光会さざんか荘入居者加瀬信好氏、（特非）みのり福祉会みのりホーム入居者桐原歩氏、ピアサポートクラブICHI-J0代表であり一人暮らしをされている小沢弘氏にご登壇いただき、トークセッションを行いました。

生活をする中での喜怒哀楽の話、交友関係や地域とのつながり、これからの人生・暮らし方等、率直にお話しして頂き、参加者の皆様にもお三方が地域で生活する姿をイメージできたのなら幸いです。



Coming
Soon!

▲今後のイベント開催のお知らせ▲

●第37回グループホーム講座（南総地区）

「想い～南総地域の現在（いま）とこれから」

平成31年1月19日（土）10時～16時 君津中央図書館視聴覚室

●第38回グループホーム講座（東葛地区）

平成31年2月 松戸市内で開催予定

※詳細はお近くのグループホーム等支援ワーカーにお尋ねください。

第36回千葉県障害者グループホーム講座（東葛地区）報告

9月29日（土）、ゆいまーる習志野にて「グループホームは、いま・・・。グループホームにできること」を開催致しました。

現在、グループホームは様々な形で運営されています。今回はこれまでのグループホームの歴史を踏まえつつ、グループホーム事業所からの実践報告を通して、これからのグループホームに求められることや現状の課題などを皆様と考えていく講座にしました。当日は当事者・ご家族・支援者・開設希望者など62名の方にご参加頂きました。

始めに習志野圏域障害者グループホーム等支援ワーカー石塚友子から「障害者グループホームの歴史と現在」について、次に野田圏域障害者グループホーム等支援ワーカー大橋宣彦より「グループホーム入居に向けて必要なこと」の説明を致しました。

後半のトークセッションでは「入居した後の支援は？今とこれから」をテーマに、(福)八千代翼友福祉ケアホームもやい管理者吉野孝様、(特非)千葉精神保健福祉ネットハウス中国分管理者中野めぐみ様、コーディネーターとして(福)南台五光福祉協会なしねっと相談支援専門員中里仁美様にご登壇して頂きました。

重度知的障害の方を支えるグループホームと精神障害の方を中心に支えるグループホーム、対照的な2つの事業所の実際の支援や運営、それぞれの抱える課題やグループホームの理念などをお話し頂きました。グループホームごとにこんなにも違いがあることが興味深かったという意見も多く寄せられました。



次号「暮らしを拓く」のお知らせ

☆第10回千葉県障害者グループホーム大会報告について

平成30年12月1日（土）、千葉県教育会館において「第10回千葉県障害者グループホーム大会」が開催されました。

おかげさまで10回目のグループホーム大会という節目を迎え、「グループホームの原点と未来～繋がる櫛（たすき）～」という過去・現在・未来を考えていくイベントとなりました。

当日はたくさんの皆様にご参加いただき、この場を借りて御礼申し上げます。

次号（3月号）で詳細をお知らせ致します。是非そちらも楽しみにお待ちください！

き ど あい らく 起 努 逢 楽 のコーナー

『起業する努力、出逢いがある』障害者グループホーム等支援ワーカーは新規開設のお手伝いをします！また開設後の応援もしています！

野田圏域概要

野田圏域は野田市一市で構成された「チーバ君」の鼻の位置にあたる江戸川、利根川、利根運河に3方向を囲まれた住みやすい穏やかな地域です。接している茨城県、埼玉県のグループホームとも空き状況などの情報交換を行っています。

知的障害者の入所施設が2か所、入院病床のある精神科病院が3か所あります。比較的知的障害の方のグループホームの比率が大きい地域です。

障害者グループホーム等支援ワーカーとして思うこと

私は、重度の知的障害者の支援施設で16年働いてから障害者グループホーム等支援ワーカーになり、まもなく丸2年となります。入所施設とグループホームの対立形式で暮らしの場を論じられている場面をずっと見てきましたが、今の立場になり、グループホーム側からの視点を持つようになってきました。今の私の考え方は「入所もグループホームもみんな違ってみんないい。ただ、本人の意思決定だけは疎かにしてはいけない。」ということです。

昨年、私がグループホームへの入居を支援した方が、数日して自ら出て行ってしまいました。私も周りの支援者も、本人にとって良かれと思っただけの入居でしたが、本人が本当に望んだ結果ではなかった為でした。痛みの伴わない教訓には意味がないと言いますが、私はその時、痛みを得て改めて意思決定支援の重要性を知りました。本人の意思に伴走しているつもりでも、支援者自身が設定したゴールに利用者の手を引っ張っていつの間にかふと気が付きました。そのゆらぎの中に支援の怖さと仕事としての福祉の味わいがあると思っています。

答えのない世界で、その人にとって良い支援とはなにか、本人と一緒に考え続ける福祉という仕事に魅力を感じます。

グループホームで働く方々にもその魅力が伝わるように、楽しく仕事ができるように及ばずながら微力を尽くしていきたいと思えます。

野田圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 大橋宣彦

★野田圏域概況★（平成30年10月1日現在）

GH設置数27住居（9事業所 定員114名 内サテライト2名）

編集後記

初詣に行ったのがついこの間だと思っただけなのに今年も終わろうとしています。入居者・支援者の皆様にとって、今年はどうな一年でしたでしょうか。来年も元気な日もそうでない日も自分らしく過ごせる一年でありますように。久しぶりに代打で編集長を務め、楽しく作れました！

発行者 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

事務局 海匝圏域障害者グループホーム等支援ワーカー

旭市ロ-838

（社会福祉法人ロザリオの聖母会 海匝ネットワーク内）

編集担当

市川圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 武田 陽一